

宮田村立宮田中学校の生徒の地域認識に関する研究

1X15D063-0 藤井 美来^{*}

Mikuru FUJII

地域ごとのローカル・ニーズに合わせた地域独自の計画を策定することが求められている。そのためには、地域住民、特に未来を担う子どもたちが自分たちの住むまちをどのように捉え、意識しているのかを把握することが必要不可欠だと考えられる。本研究では、宮田中学校の生徒および保護者を対象として「好きな場所」についてのアンケートを行った。その結果、宮田村に住む中学生の生徒の好きな場所の特徴は「季節や時刻で変化する自然の風景」、「自然に直接ふれて感じられる場所」、「友達と楽しく遊べる場所」、「思い出や親しみのある小学校・中学校」、「落ち着いて過ごせる自分の家やその近所」の5つに分類されることが明らかになった。

Keywords : 好きな場所、地域認識、中学生、長野県宮田村

1. 研究の背景と目的

1.1 研究の背景

住民の価値観の多様化に伴い生まれた様々なローカル・ニーズに対し、地域独自の計画を行うには、そこに住む地域の住民の意見や要望の反映が必須である。そのため、1990年代頃から住民参加が重視され、自治体と連携して地域住民が主体的に参加して行うまちづくりが多くみられるようになった。住民参加のまちづくりを行っていく中で、まず、地域住民が自分の住むまちをどのように認識しているか、地域に対して抱いているイメージを明らかにする必要がある。

このような背景のもと、研究の場において地域認識というキーワードが注目されるようになり、地域認識の把握手法についての研究や、地域の景観イメージを明らかにする研究など、関連の研究が数多くなされている¹⁾²⁾。

さらに、これからの地域のまちづくりを考えていくうえでは、将来そこに住む子どもたちの意見が重要となってくる。そのため、子どもたちが自分の住むまちに対して抱いているイメージを抽出し、その特性を把握することが必要不可欠である。

1.2 研究の目的

本研究では、長野県宮田村の宮田村立宮田中学校の生徒と保護者を対象として、「好きな場所」に関するアンケートを行い、生徒の想起する「好きな場所」とそれに対して抱かれているイメージを把握し、生徒が自分たちの住むまちのどのような風景をどのように捉えているかという地域認識の特性を明らかにする。また、生徒のアンケート結果と保護者のアンケート結果を比較することで、生徒の地域認識と保護者の地域認識の共通点や違いを明らかにする。

2. 研究概要

2.1 既存研究の整理

本研究は長野県宮田村の宮田村立宮田中学校を対象として自由記述式のアンケートを用いて、生徒とその保護者の地域認識を明らかにする。このことから、本研究に関連する既存研究としては長野県宮田村に関する研究、地域認識に関する研究の2つの分野が挙げられる。

宮田村を対象とした研究では、増田³⁾による、建物・用途の変遷と住民の記憶に関する研究がある。

地域認識を明らかにすることを目的とした研究は多くなされており、その手法は多岐にわたる。アンケートやインタビューを行い質問に回答してもらうもの¹⁾⁶⁾⁷⁾、指示した内容に対応する写真を撮影してもらう写真投影法を用いたもの²⁾、質問に対応するイメージマップやスケッチを描いてもらうもの³⁾⁸⁾、文学作品や校歌などの文献から認識を把握するもの⁴⁾などがある。

中でも、子どもの地域認識を明らかにすることを目的とした既存研究としては、押田ら⁹⁾による児童が描く理想の浜辺風景の変化に関する研究、椎野¹⁰⁾による都市公園施設要求に関する研究、上田¹¹⁾による風景イメージスケッチ手法の理論的枠組みの構築に関する研究などがあり、児童の自然環境に対するイメージ変化や公園施設への要求、あるいは場所の意味を読み解く方法としてイメージスケッチが有用であることが明らかになっている。また、建部ら¹²⁾による子どもの住む地区の特性と心象風景に関する研究、松本ら¹³⁾による子どもの心象風景の自宅からの距離や方向に関する研究などでは、アンケート調査により子どもの地域認識を明らかにしている。

2.2 本研究の位置づけ

小中学生を対象とした子どもの地域認識に関する研究は数多くなされているが、長野県宮田村において子どもを対象とした

地域認識に関する研究事例は見受けられない。また、本研究は、子どもと大人の両方にアンケートを行ったうえで中学生に着目し子どもの地域認識の特性を述べた視点に特徴があるといえる。

2.3 研究の方法

まず、長野県宮田村における景観特性を整理したのち、アンケートを作成する。アンケート調査により、宮田中学校およびその保護者の「好きな場所」を把握し、どのような場所がどのような理由で想起されているか、回答者ごとの想起特性を考察し、「好きな場所」の特性をまとめる。

3. 対象地概要

3.1 対象地の選定

本研究では、自分の住むまちの風景に対して住民がどのような想起をするかを把握する必要がある。そのため、地域住民に研究の協力を得るために、まちづくりに積極的に携わっている地域を対象とすることが望ましい。そこで、平成29年4月から景観計画が施行され、景観計画に示された様々な景観形成、景観まちづくりが行われている長野県宮田村を対象地とした。また、宮田村では「郷育」つまり「故郷に生き 故郷を愛し 故郷を創る人材の育成」が村全体の教育方針として掲げられている。そのため、村内唯一の中学校である宮田中学校では、地元還元する力を育み、今後の人生に生かすことが目的の、「知ろう！宮田村」(1年)「体験しよう！宮田村」(2年)「よりよくしよう！宮田村」(3年)という、地域を題材とした学年ごとに段階を踏んだ教育を行い、宮田村と関わる活動への参加を促している¹⁴⁾。

3.2 対象地の概要

長野県宮田村は上伊那郡の中央に位置し、面積54.50km²、人口9,063人、世帯数3,389世帯(平成30年4月1日現在)である¹⁴⁾。村の南端には太田切川、東端には天竜川が流れており、太田切川の左岸の扇状地である平野部と、中央アルプス駒ヶ岳に至るまでの深い山地からなっている。また、宮田村は北割、南割、町割、新田、大田切、中越、大久保、つつじが丘、大原の9つの行政区から構成されている(図3.1)。

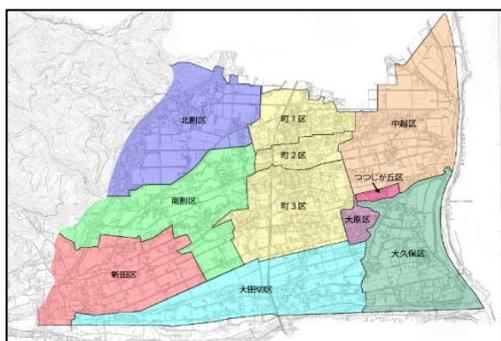


図3.1 長野県宮田村の9つの行政区¹⁵⁾

4. 「好きな場所」に関するアンケート

4.1 アンケート調査の目的

宮田中学校の生徒の好きな場所と、その場所を思い浮かべる詳しい場面や好きな理由を明らかにすることを目的として、アンケートを実施した。

4.2 アンケート調査の概要

アンケートは、宮田中学校の1年生とその保護者に対して実施した。1学年は3クラスで構成されており、生徒数は106名である。学校にて2018年10月16日にアンケートを配布し、2018年10月19日を締切日として回収した。アンケートの回収数は、生徒用アンケートが88部、保護者用アンケートが44部である。それぞれ回収率は66.70%、33.30%である。

4.3 アンケートの設問内容

生徒用アンケートを図4.1に示した。

生徒用アンケート

1年〔 〕 組〔 〕 番 名まえ〔 〕

住んでいるところに✓をつけてください。

北割 南割 町1区 町2区 町3区 新田 大田切 中越 大久保 つつじが丘 大原

宮田村には何年生んでいますか。〔 〕

① 家から学校までの道のりを頭に思い浮かべて、右の(例)のように地図を書いてください。さらに、道の途中で目印になるものや気づいた事を地図の中に書き込んでください。

② 宮田村の中で好きだなと思いつく場所を10個書いてください。(例)家の前の田んぼの横の小道、学校の校庭

③ ②で答えた10個の場所の中から特にいいと思う場所を3つ選んでください。そしてそれぞれについて思い浮かぶ様子(季節や時刻、場面など)、思い出、選んだ理由などを、できるだけ詳しく書いてください。

場所	様子、場面、思い出、選んだ理由など
(例) 学校の校庭	(例) 冬の朝は寒いけど空気が澄んでいて気持ちがいい。校庭から見える雪をかぶった山がきれい。

図4.1 生徒用アンケート

アンケートは、主に回答者の属性(居住区・居住年数)についての設問と、3つの自由記述式の設問で構成されている。設問1では、家から学校までの道のりを頭に思い浮かべて地図を描き、道の途中で目印になるものや気づいた事を書き込んでもらった。設問2では、宮田村の中で好きだなと思いつく場所を10個挙げてもらった。最後に、設問3では、設問2で挙げた10個の場所の中から特にいいと思う場所を3つ選び、それぞれについて思い浮かぶ様子(季節や時刻、場面など)・思い出・選んだ理由を記入してもらった。

設問1では、普段よく歩いている通学路のなかで、どのような場所が目印となっていてどのような要素に着目しているのかを

把握することを目的としている。また、その後の設問に答えるためのウォーミングアップとして、一度通学路の風景を頭の中に思い浮かべてもらうという意図で作成した。設問2は、好きな場所を抽出することを目的としている。より多くの回答を得るために回答する個数を指定した。設問3では、好きな場所の特徴について把握することを目的としている。

4.4 回答者の属性の集計結果

アンケートの回答者の性別と居住区の集計結果を表4.1に示す。性別については、生徒は男性(44人)、女性(44人)と男女が同数であり、保護者は男性(21人)、女性(23人)とやや女性に偏りが見られた。しかし、居住区については、生徒と保護者の間に差は見られなかった。地域ごとの回答数は町三区が最も多く、その次に南割、北割、新田と続いている。

表4.1 回答者の性別・居住区

	性別		居住区											
	男	女	北割	南割	新田	町1区	町2区	町3区	大田切	中越	つじが	大原	大久保	未回答
生徒(88)	44	44	9	14	8	8	2	23	7	3	2	0	7	5
保護者(44)	21	23	6	6	5	3	1	10	3	1	1	0	5	3
全体(132)	65	67	15	20	13	11	3	33	10	4	3	0	12	8

アンケートの回答者の居住歴の集計結果を表4.2に示す。居住歴については、生徒は12年あるいは13年と答えた人が57人で回答者の8割を占めていた。一方、保護者は、10~19年と答えた人が22人で半数を占めていた。生徒は生まれたときから宮田村に住んでいる人が多いが、保護者は子ども時代を別の場所で暮らした人と幼い頃から宮田村に住んでいる人が半々であった。

表4.2 回答者の居住歴

	居住歴											
	5年未満	5~10年	11年~15年	16年~20年	21~25年	26~30年	31~35年	36~40年	41~45年	46~50年	51年~55年	未回答
生徒(88)	4	15	68	0	0	0	0	0	0	0	0	0
保護者(44)	0	2	18	5	1	2	1	6	4	4	1	0
全体(132)	4	17	86	5	1	2	1	6	4	4	1	0

5. アンケート調査の分析と考察

5.1 手描き地図の分析・考察

設問1で得られた地図を、ケヴィン・リンチが『都市のイメージ』で都市のイメージの構成要素として挙げた5つのエレメント¹⁰⁾に読み替えて分析した。手描き地図から得られた5つのエレメントのうち、回答数が多いものを表5.1に示した。

手描き地図の結果から、生徒・保護者それぞれどのような要素に着目しているかを把握することで、行動圏や行動様式をおおまかに捉えることが出来た。

表5.1 手描き地図に描かれた5つのエレメントの上位5件

	詳細分類	上位5件		
		生徒	保護者	全体
Path	・大きな道(国道/県道/農道) ・名前のない道 ・坂道 ・並木道 ・橋	坂道(56) 名前のない道(41) 並木道(13) 橋(9) 国道(2)/県道(2)	名前のない道(17) 国道(9)/坂道(9) 農道(6) 県道(4)	坂道(65) 名前のない道(58) 並木道(15) 国道(11) 橋(9)
Edge	・道 ・川 ・線路/踏切 ・水路 ・河岸段丘	小田切川(22) 線路(12) 国道(5) 踏切(4) 県道(3)/農道(3)/名前のない道(3)	農道(7) 国道(6)/小田切川(6) 線路(3) 河岸段丘(2)	小田切川(28) 線路(15) 国道(11) 農道(10) 踏切(4)
District	・田畑 ・森林 ・動物(がいる場所) ・住宅地 ・工業団地 ・商店街	田(70) 住宅地(19) 畑(17) 森林(14) 商店街(4)	田(6) 森林(5)/商店街(5) 動物(3) 住宅地(2)	田(76) 住宅地(21) 森林(19) 畑(18) 商店街(9)
Node	・信号/交差点 ・人が集まる場所(商店/スーパー/病院/学校/ランド) ・待ち合わせ場所 ・眺めがよく、立ち止まる場所	商店(23) 病院(20) 信号(14)/待ち合わせ場所(14) 小学校(13)	商店(19) スーパー(6)/病院(6)/待ち合わせ場所(6)/道の途中点(6)	商店(42) 病院(26) 待ち合わせ場所(20) 信号(17) 小学校(14)
Landmark	・建物(公共施設/商店/運動施設/学校/会社/家) ・公園 ・設置物(自動販売機/看板) ・木花	商店(22) 木花(12)/病院(12) 設置物(11)/家(11)	商店(10) 中学校(9)/病院(9) 保育園(8) 小学校(7)	商店(32) 病院(21) 木花(18) 保育園(16) 小学校(15)

5.2 好きな場所の回答の分析・考察

設問2で生徒が挙げた「好きな場所」を分類し、表5.2に示した。

表5.2 「好きな場所」の分類表

施設	環境	分類	
		自然	その他(環境)
居住	環境	自然	山
			川・河原
			森・林
			木・花
			空
			空気・におい
		交通	動物
			道路
			鉄道
			橋
			田・畑・果樹園
			空地
その他(施設)	その他(環境)	その他	
		村内(特定不可)	
		店舗	
		商店街	
		神社・寺院	
		墓地	
その他(施設)	その他(環境)	工場	
		会社	
		病院	
		その他	

「宮田村の中で好きだなと思いつく場所を10個書いてください」という設問だったが、場所ではなく眺めを回答しているものが97個(生徒48個、保護者49個)あり、全体の8.5%を占めていた。これらの回答については、視点場を好きな場所として集計した。また、生徒、保護者、回答者全体のそれぞれについて、表5.2の分類ごとの回答割合を図5.1に示した。得られた対象数は生徒が783、保護者が364であった。生徒の回答では、【教育】(155)が最も多く、次に【遊び】(146)、【自然】(114)となっている。保護者の回答では、【遊び】(64)が最も多く、次に【交通】(61)、【自然】(60)となっている。生徒にとって通い慣れた、思い出のある小中学校や、よく遊ぶ公園やグラウンドなどが好きな場所

となっていることが分かる。保護者にとって、子どもと遊んだ公園や、車でよく通る道などが好きな場所になっている。また、生徒、保護者ともに山、川、桜の木などの自然を好きな場所として挙げている。

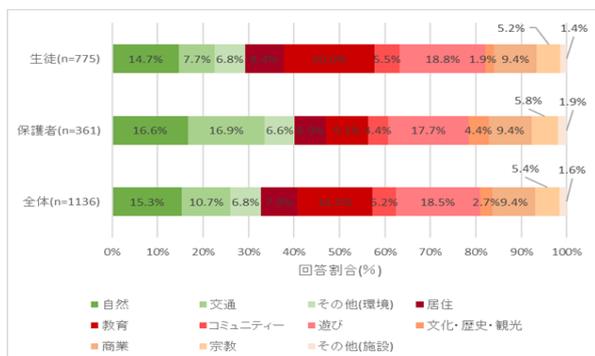


図5.1 分類ごとの好きな場所の回答割合

5.3 好きな場所の様子や理由の回答の分析・考察

1) テキスト分析と考察

回答者が地域において着目する要素と、それに対して抱くイメージを把握するために、設問3で回答してもらった好きな場所の様子や理由の回答をテキスト分析した。テキスト分析は、その対象の説明、対象に対して抱いたイメージに関連する語や文を抽出し、コードを付与した。この具体例を図5.2に示す。また、テキスト分析により得られたコードを整理したものを、表5.3、表5.4に示す。

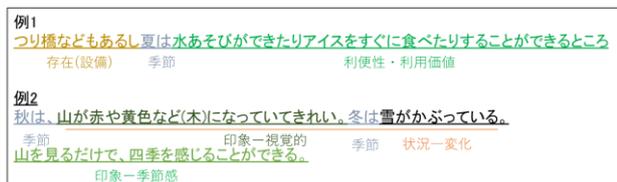


図5.2 テキスト分析の具体例

表5.3 想起内容の分類コード

コード	項目	例
X1	経験	思い出
X2	経験	日常性
Y1	知識	口コミで人気/電車は30分〜1時間ごとにとまる
Y2a1	説明	存在(設備)
Y2a2		存在(人間)
Y2a3		存在(環境)
Y2b	変化	変化(環境)
Z1a	印象	視覚的
Z1b		身体感覚的
Z1c		感情
Z1d1	評価	季節感
Z1d2		その他(雰囲気)
Z2	利便性・利用価値	色々買える/テニスが出来る/歴史が学べる/次の散歩にピッタリ
Z3	個人的嗜好	テニスが好き/温泉最高

表5.4 想起対象の説明の分類コード

コード	項目	例
a	時	時間帯
b		季節
c		時代

生徒、保護者、回答者全体について、各分類の想起数をまとめたものを表5.5に示した。生徒・大人ともに「ここからの眺めがきれい」などの【視覚的印象】や、【季節】について多く触れていることが分かる。生徒は保護者に比べ、「アイスが食べられる」、「1年中遊べる」などの【利便性・利用価値】や、「水が冷たい」、「風が気持ちいい」などの【身体感覚的印象】について述べる人が多い。一方、保護者は生徒に比べ、「口コミで人気がある」、「昔は保育園だった」などのその場所につわる【知識】や、「子供が小さい頃」などの【時代】についての記述が多い。

表5.5 内容と時の想起数

	経験	内容														時				
		様子							印象							利便性・利用価値	個人的嗜好	時間帯	季節	時代
		思い出	日常性	知識	存在(設備)	存在(人間)	存在(環境)	変化(環境)	視覚的	身体感覚的	感情	季節感	その他(雰囲気)	季節	個人					
X1	X2	Y1	Y2a1	Y2a2	Y2a3	Y2b	Z1a	Z1b	Z1c	Z1d1	Z1d2	Z2	Z3	a	b	c				
生徒	48	38	39	31	26	46	65	95	45	52	8	41	83	2	17	81	33			
保護者	21	15	23	14	8	25	37	57	18	35	11	17	34	2	17	53	27			
全体	70	53	62	45	34	71	102	152	63	87	19	58	117	4	34	134	60			

2) クロス集計の結果と分析

「好きな場所」、「想起内容」、「想起対象の説明」の3つの分類を用いて、クロス集計をすることで、回答者が好きな場所として想起する場所の特徴を明らかにする。

【時】に関する想起がされた記述について、同時に想起された内容を集計し、想起数を表5.6に示した。生徒・保護者に共通して、【時間帯】や【季節】が想起される際には、同時に【環境の変化】や【視覚的印象】が想起されやすい。また、【季節】と同時に【個人的嗜好】が多く述べられている。また、生徒・保護者に共通して、【時代】が想起される際に、同時に【思い出】が想起されやすい。

表5.6 時間帯/季節/時代が想起された回答の内容の想起数

	経験	内容														時				
		様子							印象							利便性・利用価値	個人的嗜好	時間帯	季節	時代
		思い出	日常性	知識	存在(設備)	存在(人間)	存在(環境)	変化(環境)	視覚的	身体感覚的	感情	季節感	その他(雰囲気)	季節	個人					
X1	X2	Y1	Y2a1	Y2a2	Y2a3	Y2b	Z1a	Z1b	Z1c	Z1d1	Z1d2	Z2	Z3	a	b	c				
生徒	0	4	3	1	2	3	9	13	4	5	1	5	1	5	2	0				
保護者	1	4	1	1	2	3	10	12	2	6	2	1	3	0	0					
全体	1	8	4	2	4	6	19	25	6	11	3	6	5	0	0					
生徒	12	11	9	5	5	24	51	49	19	14	8	12	23	0	0					
保護者	9	8	9	3	3	14	31	35	7	11	8	8	12	0	0					
全体	21	19	18	8	8	38	82	84	26	25	16	20	35	0	0					
時間帯	26	3	2	4	2	3	4	6	3	7	1	3	5	0	0					
季節	21	3	5	4	2	5	5	9	3	9	0	2	6	0	0					
時代	49	6	8	8	4	8	9	15	6	16	1	5	11	0	0					

【時】に関する想起がされた記述について、同時に想起された想起場所を集計し、想起数を表5.7に示した。生徒・保護者に共通して、【時間帯】が想起される際には、同時に【交通】が想起されやすいということが分かる。これは、通学や通勤の際によく通っている道から見える風景が回答者の好きな風景となっているからであると考えられる。また、生徒の場合は【時間帯】が想起される際には【教育】に分類される回答が多いが、保護者の場合は【居住】に分類される回答が多い。これは、生徒は1日のうち多くの時間を学校で過ごすのに対し、保護者は家で過ごすことが多い人もいるからだと考えられる。生徒・保護者に共通して、

【季節】が想起される際には、【自然】が想起されやすいということが分かる。これは、季節によって変化する風景が回答者の好きな風景となっているからだと考えられる。また、保護者の場合は【季節】が想起される際に【交通】に分類される回答が多い。これは、保護者は日常的に車を運転して通勤や買い物をする事が多く、季節によって変化する風景をよく見ているからだと考えられる。生徒の場合は、【時代】が想起される際に、【遊び】が想起されやすいということが分かる。これは、公園や体育館、グラウンドなどの遊び場は、幼い頃や小学生の頃に遊んだ思い出があり、好きな場所となっているからだと考えられる。

表5.7 時が想起された回答の場所の想起数

		場所										
		環境			施設							
		自然	交通	その他(環境)	居住	教育	コミュニティー	遊び	文化・歴史・施設	商業	宗教	その他(施設)
時間帯	生徒	2	5	1	2	4	1	0	0	1	1	0
	保護者	4	5	1	5	1	0	0	0	1	0	0
	全体	6	10	2	7	5	1	0	0	2	1	0
季節	生徒	27	5	11	6	11	2	12	1	5	1	0
	保護者	12	14	4	5	1	1	6	2	1	6	1
	全体	39	19	15	11	12	3	18	3	6	7	1
時代	生徒	5	2	1	1	6	1	13	0	1	2	1
	保護者	7	7	1	0	0	1	5	2	1	3	0
	全体	12	9	2	1	6	2	18	2	2	5	1

3) 共起ネットワーク図を用いた分析と考察

テキストマイニングの代表的なツールであるKH Coderの「共起ネットワーク」のコマンドを用い、好きな場所の様子や思い出、選んだ理由の回答について、抽出語の中で出現パターンの似通ったものを線で結んだ図、すなわち共起関係を線で表したネットワークを描いた。ネットワーク図において、出現数の多い語ほど大きい円で、強い共起関係ほど太い線で描かれている。生徒の回答を共起ネットワーク分析にかけた結果を図5.3に示す。以下に、回答のネットワーク分析の結果と語の共起関係をもとに、よく言及された場所の特徴について、各々表題をつけて文章としてまとめた。文中の下線は共起ネットワーク図中に抽出された語である。

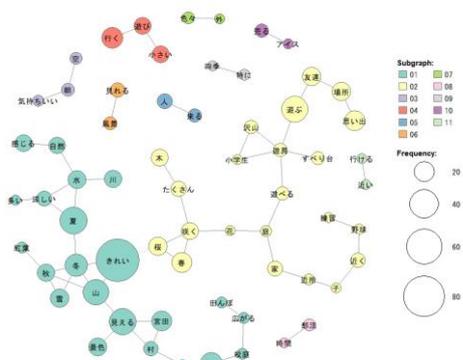


図5.3 生徒の回答の共起ネットワーク図

《季節ごとのきれいな自然の風景》

春に咲く桜や冬の雪をかぶった山、秋の紅葉などの季節によって変化する自然の風景や富田村全体が見える景色がきれい

という記述が多い。

《自然に直接ふれて感じられる場所》

夏の涼しい水辺や冷たい川の水、朝の空や気持ちいい風など、自然を感じるという記述が多い。

《友達と遊べる場所》

すべり台などの沢山の遊具で遊べる場所や野球の練習などのスポーツが出来る場所や友達と遊んだ思い出の場所など、友達と遊べるという記述が多い。

《小学校や中学校》

学校の校庭から見える景色や、部活の時間の思い出など、学校に関する記述が多い。

《自分の家やその近所》

家の庭に咲く花や、いつでも遊べる家の庭や、近くに住む子と遊ぶ家の近所の場所など、自分の家やその近所に関する記述が多い。

保護者の回答を共起ネットワーク分析にかけた結果を図5.4に示す。

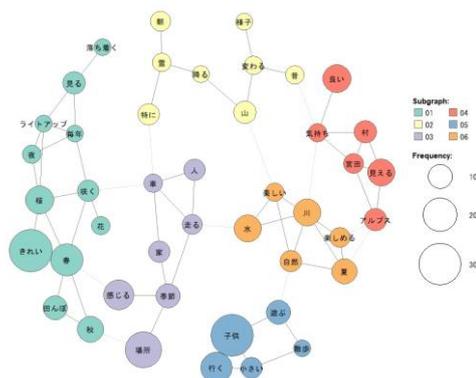


図5.4 保護者の回答の共起ネットワーク図

《季節ごとのきれいな自然の風景》

春の桜や夜のライトアップされた桜、秋の田んぼ、など、季節によって変化する自然の風景がきれいという記述が多い。車から見える風景が多く挙げられていることが分かる。

《子供が関連する場所》

子供が小さい頃よく散歩に行った場所や遊びに行った場所など、子どもに関連する記述が多い。

《自然に直接ふれて感じられる場所》

夏の涼しい水辺や冷たい川の水など、季節や自然を感じるという記述が多い。

《車で通る時に見える景色》

家から車で行く時、車で走る時など、車で通る時に見える景色についての記述が多い。

《昔の風景や思い出》

昔と変わった様子や昔の思い出やなど、子供の頃の風景や思

い出についての記述が多い。

1)2)3)の分析により、生徒の好きな場所の特徴は表5.8の5つに整理することができた。

表5.8 生徒の好きな場所の特徴

特徴	5.2		5.3	
	表5.2の分類	表5.3の分類	表5.4の分類	5.3.3)
季節や時刻で変化する自然の風景	【自然】	変化(環境) 視覚的印象	時間帯 季節	春に盛く 秋の紅葉 冬の雪をかぶった山
自然に直接ふれて感じられる場所	【自然】	身体感覚的印象 季節感 その他(雰囲気) 存在(環境)	時間帯 季節	夏の涼しい水辺 冷たい山の氷 朝の空や気持ちいい風 自然を感じる
友達と楽しく遊べる場所	【遊び】	感情 利便性・利用価値 思い出 存在(設備)	時代 時間帯 季節	すべり台などの近山の遊具で遊べる 野球の練習 友達と遊んだ思い出 友達と遊べる
思い出や親しみのある小学校・中学校	【教育】	思い出 変化(環境) 視覚的印象 感情	時代	校庭から見える景色 部活の時の思い出
落ち着いて過ごせる自分の家やその近所	【居住】	利便性・利用価値 感情 思い出 日常的 視覚的印象	時間帯 季節	家の庭に咲く花 いつでも遊べる家の庭 近くに住む子ども達の近所

生徒と保護者に共通して、季節や時刻で変化する自然の風景が好きな場所として認識されている点が大きな特徴として注目される。また、生徒については、遊べる場所が好きな場所となることが多く、遊びの体験が地域認識に関係があると考えられ、あわせて保護者については、子どもが遊んでいることや、子どもと遊んだことが、地域認識に関係しているということが伺えた。また、居住区による行動範囲や目的地までの距離の相違が地域認識と関係していることも伺えた。

6. 結論

6.1 研究のまとめ

本研究では、宮田村立宮田中学校の生徒および保護者へのアンケートから、好きな場所についての特徴の実態把握を行った。その結果、以下のことが分かった。

生徒の好きな場所の特徴は「季節や時刻で変化する自然の風景」、「自然に直接ふれて感じられる場所」、「友達と楽しく遊べる場所」、「思い出や親しみのある小学校・中学校」、「落ち着いて過ごせる自分の家やその近所」の5つに分類される。

以上の特徴と合わせて、以下の地域認識の特徴に関する示唆が得られた。まず、生徒は、遊具がたくさんあり友達とよく行く公園やグラウンド、学校の校庭など、遊べる場所が生徒にとって宮田村の中の好きな場所になっており、生徒が遊びの体験を通じて地域を認識していることが伺える。また、遊びの空間では、遊ぶという体験だけでなく、そこから見える眺めや、自然にふれる経験から、地域を認識している。一方、保護者については、子供が遊んでいることや、子供と遊んだことが、地域認識に関係していることが伺える。次に、年齢や居住区にかか

わらず、宮田村に住む人々にとって、春の桜や秋の紅葉、朝と夜で違って見える山々など、季節や時刻によって変化する自然の風景が自分の住むまちの好きな風景となっており、さらに、時間的興行きが増すほど思い出として想起される。次に、生徒と保護者では交通手段や主となる生活範囲などの生活様式に違いがあり、それが地域認識の違いに関連している。

今後は回答者自身が具体的に場所の特定やながめの写真撮影などを行うことによって、本研究の成果を宮田村の景観づくり

<参考文献>

- 鈴木崇之・石川徹・貞広幸雄・浅見泰司：都市施設が居住者のまちへの愛着に及ぼす影響に関する研究，都市計画論文集，Vol. 64, No. 3, pp. 117-123, 2011
- 松島洋平・奥敬一・深町加津枝・堀内美緒・森本幸裕：琵琶湖西岸の里山地域における地元住民と移入住民の景観認識の比較，ランドスケープ研究 71(5), pp. 741-746, 2008
- 四戸秀和・上田裕文：「個人意識としての気に入っている風景と集団意識としての地域らしい風景の関係」，ランドスケープ研究 76(5), pp. 575-578, 2013
- 塚田伸也・森田哲夫・橋本隆・湯沢昭：「群馬県中学校の校歌を事例としたテキスト分析により導かれる山岳の景観言語の検討」，ランドスケープ研究 76(5), pp. 727-730, 2013
- 増田大夢：「街並み構成要素の変遷と住民の記憶の関係—長野県宮田村宮田宿区域を対象として—」，景観・デザイン研究講演集，No. 14, pp. 48-53, 2018
- 芮京祿：「児童の居住環境と地域景観評価との関連」，ランドスケープ研究 59(5), pp. 201-204, 1995
- 藤本尚子・藤田素弘：「子どもの視点に基づく通学路環境の評価に関する研究」，都市計画論文集，No. 43-3, pp. 415-420, 2008
- 椎野亜紀夫：「市街地および近郊地域における児童の理想とする自然環境のあり方に関する考察」，ランドスケープ研究 76(5), pp. 615-620, 2013
- 押田佳子・山田昌枝・上甫木昭春：自然環境教育を通じた児童が描く理想の浜辺風景の変化に関する研究，ランドスケープ研究 vol. 68 No. 5, pp. 457-462, 2005
- 椎野亜紀夫：児童の描くスケッチから見る都市公園施設要求に関する一考察：ランドスケープ研究，VOL. 72 No. 5, pp. 741-746, 2009
- 上田裕文：風景イメージスケッチ手法の構築に関する研究：都市計画論文集 No. 44-3, pp. 37-42, 2009
- 建部謙治・松本直司・花井雅充：「生活空間における心象風景と地区特性との関連性—子どもの心象風景に関する研究 その1—」，日本建築学会計画系論文集，No. 565, pp. 217-223, Mar., 2003
- 松本直司・建部謙治・花井雅充：「生活空間における想起距離及びその方向性—子どもの心象風景に関する研究 その2—」，日本建築学会計画系論文集，No. 575, pp. 69-75, Jan., 2004
- 宮田村HP (最終閲覧日2019年1月6日)
<https://www.vill.miyada.nagano.jp/>
- 国土地理院地図データに一部加筆
- ケヴィン・リンチ、丹下健三・宮田玲子訳(1968)『都市のイメージ』岩波書店 pp. 56~58